

「足立区多文化共生推進計画案」のパブリックコメント結果

計画案の該当項目等	区民からの意見要旨	区の考え方
基本理念	<p>多文化共生は商店街の活性化にもなる。同じ社会の一員として、障がい者、外国人とともに働く店の起業は障がい者により刺激と思われる。綾瀬川に近い方には高架下に数件の空き店舗があり、綾瀬駅西口地区は出店には良い環境にある。多文化共生の具体例として、プロジェクトを作るのもよいと思う。健康と福祉の足立として、各地で導入されつつある「ベロタクシー」で綾瀬から発信したい。ベロタクシーはエコな乗り物であり、健康にも良く、病院やデイサービスの送迎、公園への散策、買い物等の利用があるだろう。スカイツリーが完成する墨田区は観光都市の準備をしている。足立も見過ごすことはない。商店街の中のお店で、外国の方とともに働くことは言葉の面でも良い。障がいのある者も無い者も、国籍の壁を乗り越えよう。ベロタクシーで、異文化の共生をしよう！</p>	<p>意見を関係部署に伝えます。また、「ちがいを豊かさに - 言語や文化、習慣の異なる人々が協働で築く『多文化共生都市あだち』」を基本理念として、「足立区多文化共生推進計画」に基づく、多文化共生の関連事業を進めていきます。</p>
施策と工程 2-3) 防災・危機管理の推進	<p>改訂案に概ね賛同する。 今後30年で関東大震災級の震災が70%の確率で発生すると各方面で案内されているのに、改訂案の「施策と工程」の中で、災害対策課は「地域での防災訓練等において外国人の参加できる訓練メニュー等を検討する。」となっている。実態調査によると「区に望む災害対策」で日本人区民の約47%が「外国人を含めて地域の人どうしの連絡・協力体制づくりを進める。」外国人区民の約36%が「地域のひとどうしの連絡・協力体制づくりを進める」となっている。また、外国人区民の約30%が「地域の防災訓練に誰もが参加しやすいようにする。」日本人区民の約30%が「地域の防災訓練に外国人と一緒に参加する。」を望んでいる。この災害対策課の工程で「検討」では危機管理体制として、十分な施策となっていないのではないか。</p>	<p>区のホームページは平成21年7月1日から自動翻訳サービスが始まり、英語、中国語、韓国語の3言語で避難所運営訓練や総合防災訓練の日程案内が始まりました。今後は、日本語ボランティア教室に訓練の日程を案内し、外国人区民の訓練参加につなげていきます。また、災害対策課は地域住民に訓練参加を呼びかけ、外国人と日本人の相互連携と協力のもと各訓練を実施し、地域の防災力を高めていきます。 改訂案は「地域での防災訓練等において外国人の参加できる訓練メニュー等を検討し、実施する。」に変更し、2010年以降の年次別工程スケジュールを「実施」にします。</p>
施策と工程 2-4) 外国人（在住・在留）の創業・改業の支援	<p>施策と工程の中で、中小企業支援課では、「融資制度のあっせん、創業支援施設への入居等、外国人への支援活動を行っている。」は「実施」となっているが、実態調査では起業を考える外国人は約44%であり、起業時の融資制度の認知度で外国人区民は「知らない」が約72%である。もっと融資制度を外国人にPRし、外国人区民が起業できる環境づくりを整えるべきである。</p>	<p>区のホームページは平成21年7月1日から自動翻訳サービスが始まり、英語、中国語、韓国語の3言語で「融資制度のあっせん」案内が始まりました。中小企業支援課は、この「融資制度のあっせん」案内をはじめ、区民の創業と改業の支援を今後も積極的に行っていきます。</p>